



## 若葉のかたちは「無限∞」の「メビウスの輪」



校長 片寄 玲子

二十四節季七十二候のうち第6候、草木萌動（そうもく、めばえいする。）の季節となりました。3月、大地に緑の芽が一斉に広がり、木々には花の蕾がなります。どれだけ冷たい雨の日も雪の日も、土の下では生命がじっと耐えながら動いていたのですね。

昔々の人たちも、このことを身近に感じて、歌に詠んでいました。

草も木も 種はひとつをいかなれば 双葉三つ葉にめぐみそめけん 行尊

植物の種はひとつでも、そこから双葉や三つ葉が生れたり、枝分かれしたりと、成長の様子はさまざまです。形には意味があって、ものやことの性質や、みえない何かをかたどっているのだというところに、あらためて気が付かされる季節です。

さて、若葉のかたちは「無限」なのだそうです。∞・・・なるほど。この記号にそっくりです。

そして、「メビウスの輪」にも似ています。循環を表し、巡り続ける「永遠」のかたちです。

若葉の多くがこのかたちなのは偶然かもしれませんが、さまざまなこじつけも、なんだか納得できてしまいます。

まもなく、別れと出あいの時期です。生命が新しく芽生えるはじまりの季節でありながら、春がなんとなくせわしく物悲しいのはこのせいです。

かがやく東泉の子供たちにも、大切に素敵なこの時期を、悔いなく過ごしてほしいと願います。

花は根に 鳥は古巣にかへるなり 春のとまりを知る人ぞなき 崇徳院

花は咲き終えたら根にかえり、鳥はもと居た巣に戻っていく。それでは春はいったいどこへ行ってしまふのだろうか？ゆきさきを知っている人はいるのだろうか？自然の摂理でもとに「戻る」ものたちをきっかけに、ここから去ったら二度と戻らずにいったん消えて循環していく季節のようなものの美しさとはかなさを表した歌です。

卒業する6年生も、いまの学年を全うして進級する子供たちも、元に戻ることはなく、また新しい一年の始まりを迎えて循環する季節を生きていきます。そのために必要なものをたくさん抱えて。

子供たちの若葉のかたちの∞の可能性ある人生を、私たちには応援することしかできません。現在の校舎で過ごす最後の1か月。よい締めくくりができるよう、そして、最高のスタートを切ることができるよう、最後まで力を尽くしてまいります。

今年度も、たくさんのご協力、ご支援をいただきましてありがとうございました。

### 3月の目標

生活目標：学校をきれいにしよう。

保健目標：一年間の健康生活をふり返ろう。

給食目標：楽しく会食をしよう。

東泉小学校ホームページ

<http://www.taitocity.net/tousen-es/>



